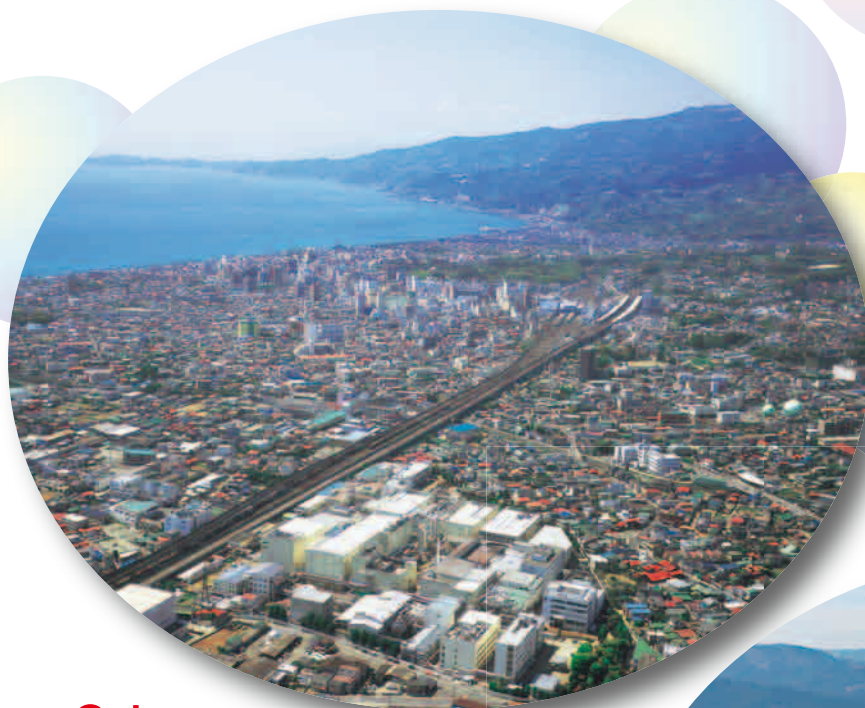


富士フイルム 神奈川工場 サステナビリティレポート 2016



Odawara



Ashigara

はじめに

富士フィルム神奈川工場は創業の地であり、生産品目は時代の流れと共に変わってきましたが、80余年経った現在でも弊社主力工場として数多くの製品を世の中に送り出しております。これも私どもの製品をご利用いただいておりますお客様をはじめ、この神奈川工場での生産活動へのご理解、ご協力をいただいている地域の皆様、関係会社の皆様あってのこと、改めてステークホルダーの方々へお礼申し上げます。

生産活動

2005年社名から‘写真’の文字をなくし「富士フィルム株式会社」への変更とほぼ同時に小田原工場と足柄工場を統合し神奈川工場としました。現在の生産品は液晶ディスプレイ用偏光板保護フィルム「フジタック」などのフラットパネル用材料、その場で写真がみられるインスタント写真「チェキ」などの写真感光材料、データストレージテープなどの記録メディア製品、さらに新規機能性材料など幅広い分野の製品を生産する工場に変化しています。特に昨年は新規高機能性材料製品として上市した「エクスクリア（透明導電性フィルム）」がタッチパネル部材として本格的に市場導入され、新たな事業分野へ踏み出す第一歩となりました。これに続く新規製品の開発・生産を更に加速して市場導入していくことが今後の最大の経営課題です。

環境保全活動

このように神奈川工場での生産品も時代の要請で大きく変化してきましたが、「地球・人類・企業の持続可能な発展を目指し、企業体質・製品・サービスにおける高い環境品質を実現して、顧客満足を達成する」ことを趣旨とする「富士フィルムグループグリーンポリシー」を継続することには変わりありません。

これらのポリシーを実現するしくみとして、神奈川工場では、2009年より「安全、環境、品質」の3つのマネジメントシステムを統合して運用する統合マネジメントシステム（IMS）を導入しました。統合運用することで経営環境の変化に対応した重点施策を一丸となって推進する『リスクマネジメント機能』の強化を図るものです。

また、お客様に価値ある機能を適正な価格で提供するためにも、エネルギーコストの削減が重要な課題です。2013年より全社エネルギー戦略推進委員会活動をスタートさせ神奈川工場でも毎年大きな省エネ成果を上げており、2016年以降も発想を転換し、着眼点を変えて更なる省エネに取り組んでいきます。

今後の課題

本年4月の熊本地震、昨年箱根山噴火警戒レベルの上昇や鬼怒川の被害等、神奈川工場としても多くの事例から学ぶべき点が多々あります。地域行政との連携、事業継続のためのプラン（BCP）の見直し、住民の皆様や関係会社と一緒に災害発生時の準備を進めますが、特に非常事態時の環境保全については訓練も含めて強化を進めてまいります。

天災以外にも社会環境・経営環境は大きく変化していく中でも迅速に対応し、継続的な発展を遂げるには従来のやり方を常に見直し、改善していくサイクルを回す必要があります。地域の皆様をはじめ、社外の皆様と今後双方向のコミュニケーションを図りながら、更なる改善に繋がりたいと考えています。皆様からのご指摘、ご意見、ご指導を賜れば幸いです。

2016年7月

富士フィルム株式会社
神奈川工場長

金武 哲史



目次

ごあいさつ	1
神奈川工場の概要・環境負荷	2
神奈川事業場方針	3
2015～2016 活動のTopics	4
環境保全・労働安全衛生	
《特集》薬品漏洩防止対策	5・6
環境リスクアセスメント	
環境保全活動	7
大気・廃棄物の管理	
水質・PRTR調査結果	8
省エネルギー・CO ₂ 排出量の削減	9
地域とのコミュニケーション	10

■編集方針

本レポートは富士フィルム株式会社神奈川工場と当工場敷地内にある関連組織およびグループ会社の環境・安全および地域コミュニケーションについての活動と2015年度における実績を中心に掲載し、私たちの取り組みを読者の皆様にご理解いただくとともに取り組みの更なる向上を目指し、読者の方々とコミュニケーションを図ることを目的に毎年発行しています。

本年度の特集は、神奈川工場が独自に考案し取り組んでいる「環境リスクアセスメント」について掲載いたしました。

読者の皆様には、巻末にある連絡先までご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

概要

神奈川県工場の概要

	小田原サイト	足柄サイト
所在地	〒250-0001 神奈川県小田原市扇町2-12-1	〒250-0193 神奈川県南足柄市中沼210
創立	1938年6月15日	1934年1月20日
生産金額	598 億円	641 億円
敷地面積	110 千㎡	326 千㎡
建物面積	46 千㎡	152 千㎡
延床面積	126 千㎡	443 千㎡
従業員数*	1,068 人	2,250 人
主要製品	<ul style="list-style-type: none"> ・WVフィルム 液晶ディスプレイ用視野角拡大フィルム ・記録メディア コンピューター用バックアップテープ 放送用ビデオテープ など ・化学薬品 WVフィルム用/写真用/外販用 硝酸銀 	<ul style="list-style-type: none"> ・TACフィルム 液晶ディスプレイ用偏光板保護フィルム ・写真フィルムと印画紙 一般アマチュアおよびプロフェッショナル写真家用 ・写真感光材料 製版用/医療用/事務用/映画用/産業用 ・体外診断薬および医療機器 ・透明導電性フィルム

*2016年3月現在 サイト内にあるグループ会社の従業員数を含む

神奈川県工場マネジメントシステム認証取得年月

	ISO9001	ISO14001	ISO14001 小田原 / 足柄サイト統合	OHSAS18001 / 統合マネジメントシステム運用
小田原サイト	1992年 10月	1996年 10月	2006年 12月	2009年 11月
足柄サイト	1992年 9月	1996年 12月	2006年 12月	2009年 11月

神奈川県工場の環境負荷 (2015年度)

エネルギー・井水

	小田原サイト	足柄サイト
電力-買電	13,558 千kWh/年	91,725 千kWh/年
電力-自家発電	39,959 千kWh/年	92,010 千kWh/年
重油	-	575 KL/年
都市ガス	13,348 千Nm ³ /年	38,850 千Nm ³ /年
井水・市水	3,448 千m ³ /年	9,192 千m ³ /年

主要原材料

	小田原サイト	足柄サイト
ベースフィルム	4,083 t/年	7,231 t/年
銀	223 t/年	153 t/年
鉄	250 t/年	-
ゼラチン	-	384 t/年

大気排出

	小田原サイト	足柄サイト
VOC	22.0 t/年	221.7 t/年
CO ₂	36.6 千t/年	133.9 千t/年
SO _x	-	1.0 t/年
NO _x	19.0 t/年	21.8 t/年
ばいじん	0.0 t/年	0.1 t/年

排水量

	小田原サイト	足柄サイト
公共河川	3,298 千m ³ /年	7,940 千m ³ /年
下水道	150 千m ³ /年	1,316 千m ³ /年

廃棄物量

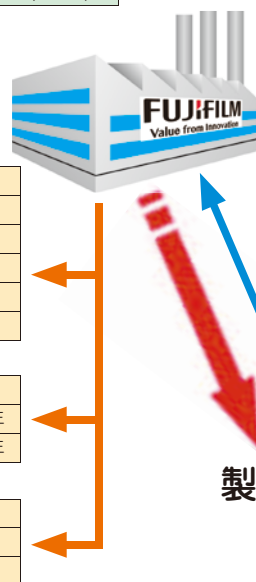
	小田原サイト	足柄サイト
リサイクル	1,248 t/年	3,428 t/年
直接埋立+単純焼却	1.9 t/年	9.7 t/年

原料再生

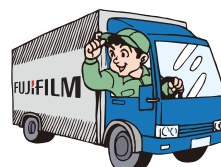
	小田原サイト	足柄サイト
銀	4.2 t/年	25.4 t/年
溶剤	604 t/年	-
ベースフィルム	-	257.0 t/年

リユース

	小田原サイト	足柄サイト
プラスチック	21.7 t/年	-



製品



平成28年度 神奈川事業場方針とスローガン

FUJIFILM

平成28年度 神奈川事業場方針

**一人ひとりが変化に挑み
力を結集し 新たな価値を創造しよう!**

安全・環境・品質委員会 行動指針

- 【安全】 相互助言で、意識・感度を高めゼロ災を達成しよう!
- 【環境】 環境リスクアセスメントを定着し、重大トラブルゼロを実現しよう!
- 【品質】 品質教育を定着させ、顧客信頼の高い製品を作り続けよう!

平成28年度 神奈川事業場方針

神奈川工場および関連組織・グループ会社を含む神奈川事業場では、創業以来生産し続けているフィルムに代わる新製品を成長軌道に乗せ、富士フィルムの大きな収益源としていくことが経営の最大の課題となっています。

一方で、世の中を取り巻く環境は大きく変化し、私たち一人ひとりがその変化を理解して、自らも変化してゆくことが必要です。お互いが連携し、新たな変化、価値を生み出してゆくことを今年度の方針としました。

行動指針

事業場方針を実現する源泉は個人と組織の現場力です。安全、環境、品質活動のいずれもが業務と直結しており、トラブルを無くし、品質の高い製品を作り続けるために、具体的に行動に移しやすい行動指針を定めました。

「神奈川」事業場方針実現のしくみとして運用する「統合マネジメントシステム（神奈川IMS）」

統合マネジメントシステムの運用

神奈川事業場では、ISO9001（1992～）、ISO14001（1996～）、OHSAS18001（2009～）を認証取得し、2009年以降、これら3つのマネジメントシステムを統合マネジメントシステム（IMS）として運用しています。（IMS：Integrated Management System）

統合マネジメントシステム運用の狙い

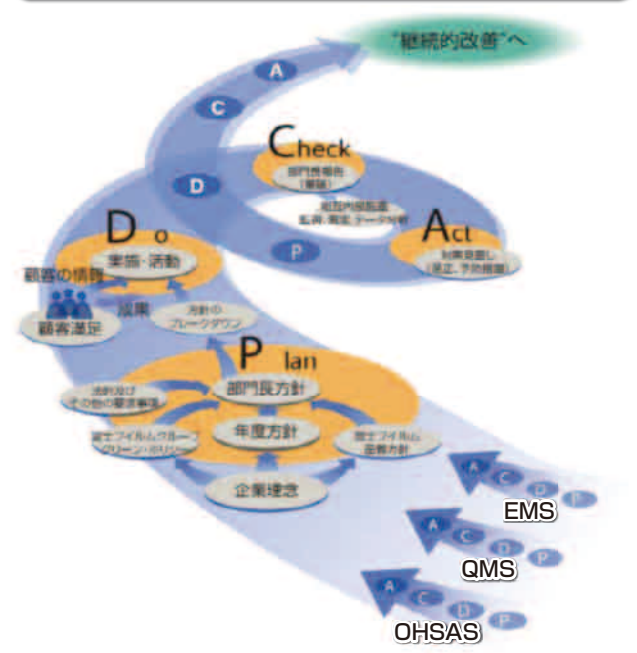
統合マネジメントシステムでは、事業場内の関係会社を含む全部門で統一した事業場方針、行動指針を定め一丸となって業務改善に取り組みます。

統合運用することで、より経営指針と一体となった事業基盤の強化につなげるとともにシンプルで効率的な改善のしくみを実現しています。

統合マネジメントシステムの運用体制

神奈川事業場では方針や重点課題を策定しIMS活動全体を統括するIMS委員会と「安全、環境、品質」のそれぞれの軸で改善活動を推進する専門委員会を設けそれらが連携して、重点課題を推進しています。

経営と一体となった改善活動



神奈川IMS 運用体制

神奈川IMS委員会

- ・ 神奈川IMSの最高決議機関
方針、重点課題の決定、マネジメントレビュー

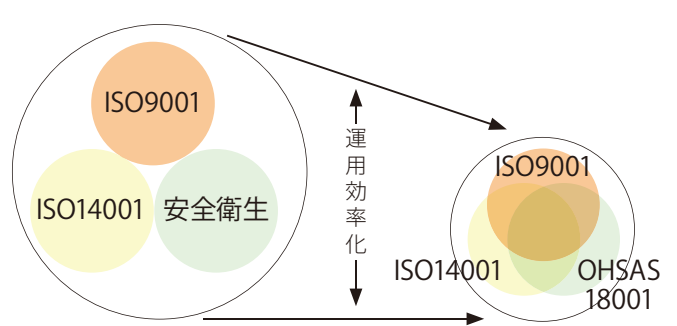
IMS専門委員会

- ・ IMS安全委員会
- ・ IMS環境委員会
- ・ IMS品質委員会
- ・ 3専門委員会を設置
重点課題を3つのIMSの観点で課題展開する機関

IMS各部委員

- ・ 事務局からの連絡窓口
- 各部門IMSデータベース管理者

IMSによる運用の効率化



環境保全

社外に影響を及ぼす環境トラブル「0」件継続

工場には使用している化学薬品等が漏洩することで大気や河川を汚す環境リスクが潜んでいます。このリスクを顕在化させないために、ハード面から設備上の漏洩対策を、またソフト面から従業員への環境意識向上の教育を継続して推進しています。その結果2006年度以降は、社外に影響を及ぼす環境トラブル「0」件を継続しています。

1. 環境リスクアセスメントを活用した漏洩対策

設備からの化学薬品の漏洩を防止するために、使用する化学薬品の危険性、使用頻度、使用量等を勘案し総合的に危険性を見積もる環境リスクアセスメント^{*1}を2015年度に考案し、導入しました。現場担当者と設備の設計、保全の専門家がチームを組んで危険性が高いところをまずピックアップして、配管の肉厚測定などにより最終判定をします。そして危険性に応じて補修、部品交換を行い漏洩を未然に防ぐ対策に繋がっています。^{*1}環境リスクアセスメント：特集記事（5・6ページ）を参照

2. 環境教育による従業員の意識の向上

従業員一人一人が環境に配慮して日々の仕事に取り組めるように、富士山の伏流水が湧き出る水源地や製造現場から排出される廃水が順次浄化されていく処理施設を見学して、美しい自然の大切さや環境トラブルを発生させた時の地域環境への甚大な影響を実感する教育も行っています。この教育を始めたことで、新たな手法として考案した環境リスクアセスメントの普及や廃棄物の分別による利活用の拡大が大きく進みました。



排水緊急汲み上げ訓練（小田原サイト）



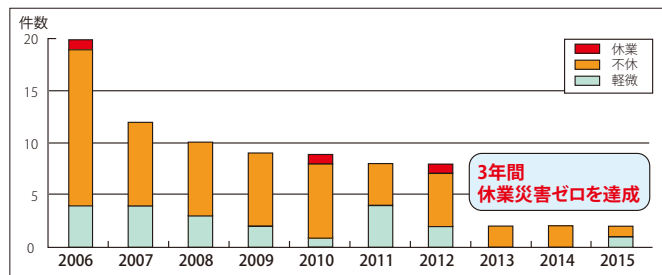
廃水処理施設の見学教育（足柄サイト）

労働安全衛生

1. 災害発生状況の推移：休業無災害3年間達成

定期的な現場巡視、リスクアセスメントによる危険源の抽出と対策、危険体感研修による実体験学習、5S活動の展開等の安全衛生活動を推進してきました。この活動により、平成27年度の労働災害も平成26年度と同じ2件に抑えることができ、平成25年以降の休業災害0件を3年間達成することができました。最近では生産設備起因ではなく、床での躓き、ドアへの挟まれといった日常生活でも発生する怪我であり、常に意識・感度を高められるようお互いに気遣う「相互助言活動」にも取り組んでいます。

神奈川工場 労働災害発生件数推移



2. 火災・爆発について体感する危険体感講座開設

火災・爆発といった危険物の怖さと着火原因で最も多い静電気とその対策について体感できる研修を開設しました。この講座は、まずは危険物の特性、静電気の発生、除電メカニズム、事故事例などをしっかり座学で学んだあと、実験でその怖さを体感する内容になっています。実際に発炎や爆発を目にすることでその怖さを強く印象付けることができます。グループ関係会社からも参加希望者が多数あり、その活動を拡げています。



防爆危険体感コース設備



静電気による着火実験

3. リスクアセスメントの繰り返し実施による重大リスク撲滅

設備や作業に潜む危険因子を抽出し、その危険度を数値化するリスクアセスメントを導入して約10年が経過しました。平成27年度までの実施結果は累計約1万件の作業に対して約10万件の危険因子の評価をおこない、改善につなげました。同じ設備でも繰り返しアセスメントすることで設備や作業の複数の危険因子が重なったリスクや頻度の低い作業におけるリスクまで見出して改善してきました。その結果として重大な災害の発生を撲滅でき、設備の本質安全につなげる有効な活動として定着できました。

環境リスクアセスメント手法の考案と工場展開

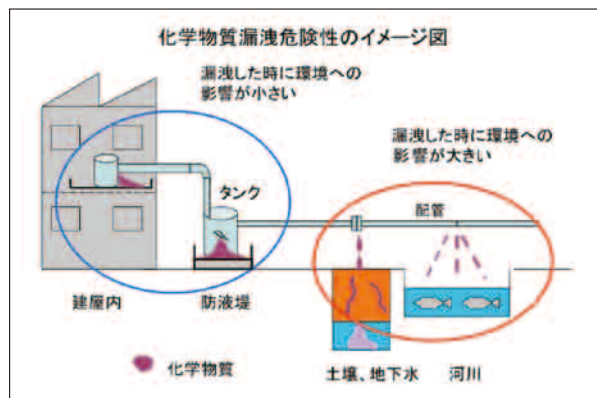
1. 環境リスクアセスメント手法考案の背景と狙い

神奈川工場では、多種、大量の化学物質を取り扱っています。万が一これらの化学物質が漏洩、流出すれば、河川の水質汚染や土壌、地下水汚染といった深刻な環境影響を及ぼします。近年、設備の老朽化の進行や、現場を熟知したベテランの減少などにより漏洩が発生する懸念もあり、これを未然に防止するために、独自に「環境リスクアセスメント手法」を考案しました。この手法は、設備で使用する化学物質の種類、取り扱い量等から漏洩の危険性を見積もり、効率的な設備診断をして危険源を特定し、対策につなげるものです。

本手法は、化学品関連会社の団体である一般社団法人日本化学工業会で昨年報告し、多くの質問を受け関心の高さが伺えました。

ここではその「環境リスクアセスメント手法」による漏洩未然防止活動の取り組みを紹介します。

(※リスクアセスメント手法：潜在的な危険源を見つけ出し、その危険性を除去もしくは低減する手法で安全活動では広く用いられています。神奈川工場では、その手法を工場設備に適用し、環境活動に展開しました。)



2. 化学物質の漏洩危険性見積もりと設備診断

設備類からの化学物質漏洩の危険性[R]は、取り扱っている化学物質の環境有害性[H]と、取り扱い量や頻度[m]、異常発生時の対応時間[P]、設備の状況[M]をそれぞれ点数付けし、下の式より見積もりました。危険性 [R]の点数が大きい方が、危険性が高いことになります。

(※環境有害性：河川、地下水に流出した場合に人の健康を損なったり水生生物に悪影響を与える恐れのこと。法律で定められていたり、化学品メーカーが発行する化学物質の安全データシートより有害性の確認ができます。)

化学物質の漏洩危険性[R]の見積もり			
$R = H + m + P - M$			
化学物質の漏洩危険性	化学物質の環境有害性	取り扱い量	異常発生時の対応時間
設備の状況			

漏洩の危険性[R]の点数	評価
18~20	危険性が非常に高い
14~17	危険性が高い
11~13	やや危険性が有る
1~10	危険性は低い

化学物質の環境有害性[H]	点数	取り扱い量[m]	点数	異常発生時の対応時間[P]	点数	設備の状況[M]	減点数
非常に大きい	10	t(トン)	4	1時間以上	6	防液堤設置など漏洩対策が十分出来ている	10
大きい	8	Kg	2	数分以上	3	定期点検、巡視などの漏洩対策を行っている	6~8
やや大きい	4	g以下	1	すぐできる	1	漏洩対策が出来ていない、または不十分である	0~4
小さい	1						

漏えい危険性見積もり

3. 工場展開

実際に、工場設備の漏洩危険性を見積もるにあたっては以下の手順で進めました。

① 現場のウォークスルー

現場担当者と設備の設計、保全の専門家がチームを組んで現場に足を運び、漏洩の危険性が高そうなところをピックアップしました。

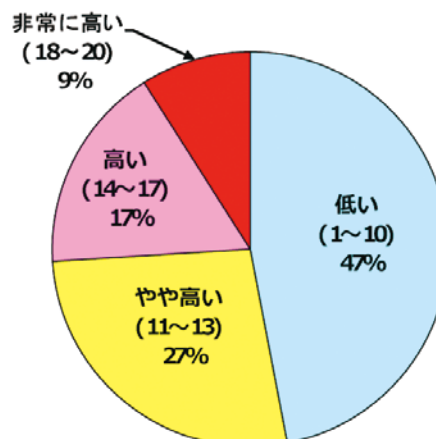
② 漏洩の危険性[R]の見積もり

ウォークスルーでピックアップした箇所について、漏洩の危険性[R]の見積もりを行いました。

次ページ円グラフに工場内の設備138箇所の漏洩危険性[R]を見積もった結果を示します。「危険性が非常に高い」または「危険性が高い」箇所が全体の26%に当たる36箇所で見つけることができました。



ウォークスルーの様子



漏洩の危険性 [R] (総件数 138 件)

③ 科学的設備診断と対策

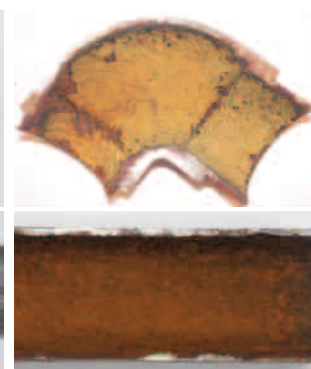
危険性が高い36箇所では、外観では判断できない配管内部の老朽化の進行について、超音波による診断技術を用いて危険源を特定し、必要な箇所については、部品の交換や補修を進めています。下に示した写真のように、交換した部品の内部は腐食、劣化が進んでおり、本活動により漏洩を未然に防ぐことが出来ました。



超音波を用いた設備診断



外観



内部

交換した部品例
(外観からはわからないが内部の腐食が進んでいる)

このように「環境リスクアセスメント手法」は、化学物質の漏洩を未然に防止するために非常に役立つ手法です。その特徴は、「特殊な技能やノウハウが必要なく、誰でも同じようにリスクを見積もることができる」ことにあり、そのため、工場全体で体系的に設備診断と対策を進めることが出来ます。

またリスクアセスメントを行った現場からは「なんとなく不安を感じていた設備に対し、定量的な診断が出来た。」「環境管理に対する意識が上がった。」などの声が上がっています。

4. 環境に優しい工場を目指して

本手法を工場内に定着させ、未然に化学物質の漏洩を防止するために、従業員に対して定期的に教育を実施しています。

教育の中では、実際に工場内の配管等を見て歩き、「環境リスクアセスメント手法」の意義や進め方を理解するとともに、環境活動に対する意識・感度の向上を図っています。

富士フィルム神奈川工場では、このような漏洩防止活動をはじめ、廃棄物削減活動、省エネ活動等を通して、一層環境に優しい工場を目指しています。



リスクアセスメント講習会

大気 (ばい煙・VOC)

	項目	対象設備	単位	県条例排出基準	工場管理値	2013年度	2014年度	2015年度	
小田原サイト	総量規制	NOx (窒素酸化物)	Nm ³ /h	4.99	4.99	0.71	3.04**	1.49**	
	濃度規制	NOx (窒素酸化物)	ガスタービン	ppm	20	20	15	15	11
			1F貫流ボイラー	ppm	60	60	50	50	43
			3F貫流ボイラー	ppm	60	60	休止中	休止中	休止中
足柄サイト	総量規制	ばいじん	kg/h	13.63 (総量)	13.00 (総量)	0.098	0.05 未満	0.085	
		NOx (窒素酸化物)	Nm ³ /h	23.48 (総量)	21.20 (総量)	1.42	2.8	3.3	
	濃度規制	ばいじん	mg/Nm ³	50	50	1 未満	1 未満	1 未満	
		NOx (窒素酸化物)	ppm	50	50	31	32	26	

総量規制の数値は最高値、濃度規制の数値は平均値です

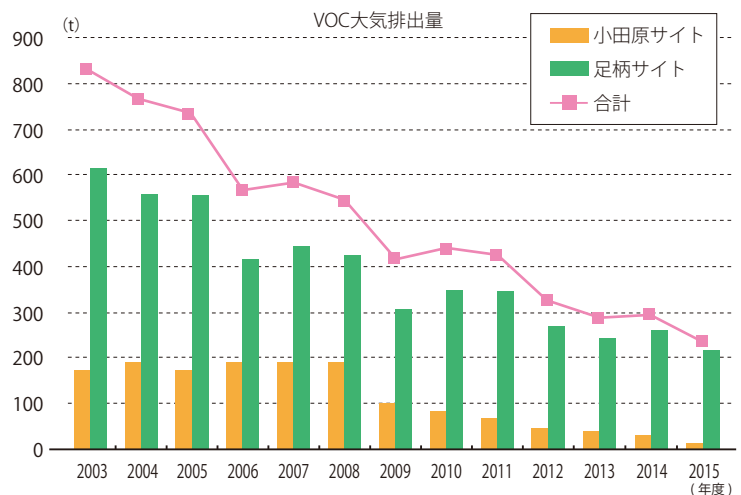
** 小田原サイト総量規制値にガスタービンを追加しました。

VOC 排出濃度規制への対応

小田原サイト21施設、足柄サイト7施設の排出口での濃度測定を行い、規制値以下であることを確認いたしました。

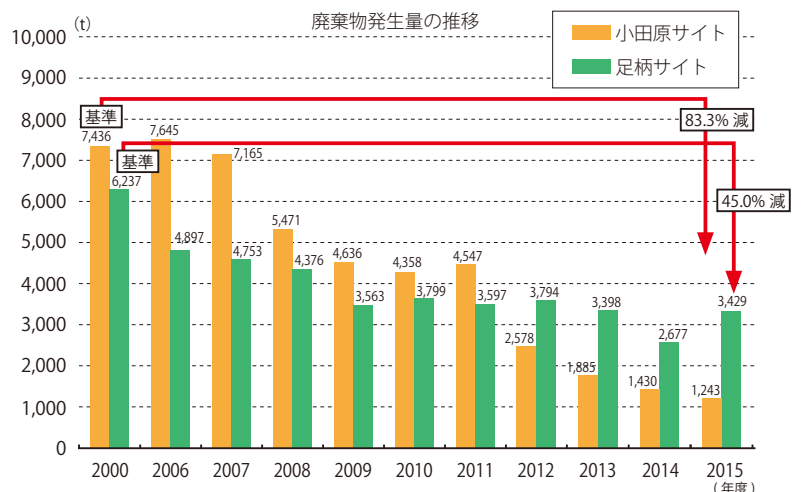
揮発性有機溶剤 (VOC) 大気排出量の削減

神奈川事業場ではVOC大気排出量の削減に取り組んでいます。2015年度も老朽化設備の更新や工程改善などを行い、排出量を削減することができました。



廃棄物の管理

神奈川工場では廃棄物の発生量削減に継続して取り組んでいます。その結果、2015年度は対2000年度比小田原サイトで83.3%、足柄サイトで45%削減することができました。今後も廃棄物の有価物化など更なる削減に向けた取り組みを進めます。



水質

河川放流系

主な項目	法規制値	小田原サイト				足柄サイト				
		県条例値	工場管理値	2014年度	2015年度	県条例値	工場管理値	2014年度	2015年度	
水素イオン濃度 (pH)	-	5.8～8.6	5.8～8.6	5.9～8.5	7.6	8.0	5.8～8.6	5.9～8.5	7.9	8.1
生物化学的酸素要求量 (BOD *1)	mg/L	160	60	50	1未満	1未満	25	20	1未満	1未満
化学的酸素要求量 (COD *2)	mg/L	160	60	50	1未満	1未満	25	20	1未満	1未満
浮遊物質 (SS)	mg/L	200	90	75	1未満	1未満	70	50	5未満	5未満
大腸菌群数	個/cm3	3000	3000	300	10以下	10以下	3000	300	14	10
ノルマルヘキサン抽出物質含有量 (鉱油類含有量)	mg/L	5	5	4	1未満	1未満	5	5	0.5未満	0.5未満
銅含有量	mg/L	3	3	1	0.05未満	0.05未満	1	0.3	0.05未満	0.05未満
亜鉛含有量	mg/L	2	2	1	0.03	0.02未満	1	0.3	0.1未満	0.1未満
溶解性鉄含有量	mg/L	10	10	5	0.05未満	0.05未満	1	0.5	0.1未満	0.1未満
溶解性マンガン含有量	mg/L	10	1	0.5	0.02未満	0.02未満	1	0.5	0.1未満	0.1未満
クロム含有量	mg/L	2	2	1	0.05未満	0.05未満	1	0.5	0.1未満	0.1未満
六価クロム化合物	mg/L	0.5	0.5	0.2	0.05未満	0.05未満	0.5	-	-	-
ジクロロメタン	mg/L	0.2	0.2	0.1	0.002未満	0.002未満	0.2	0.16	0.02未満	0.02未満
シアン	mg/L	1	1	0.8	0.05未満	0.05未満	0.5	0.3	0.05未満	0.05未満
ニッケル含有量	mg/L	-	1	0.5	0.05未満	0.05未満	1	-	-	-
フェノール類	mg/L	5	0.5	0.2	0.05未満	0.05未満	0.05	0.03	0.01未満	0.01未満
ふっ素	mg/L	8	8	6	0.1未満	0.1未満	8	6	0.2未満	0.2未満
カドミウム	mg/L	0.1	0.1	0.08	0.01未満	0.01未満	0.05	0.01	0.01未満	0.01未満
鉛	mg/L	0.1	0.1	0.08	0.05未満	0.05未満	0.1	0.06	0.01未満	0.01未満
セレン	mg/L	0.1	0.1	0.08	0.005未満	0.005未満	0.1	0.08	0.01未満	0.01未満

*1. BODとは水中の汚れ（主に有機性汚濁物質）が微生物によって酸化されるときに消費される酸素の量を指します。測定値は毎年度10月度における数値を示しました。
 *2. CODとは水中の汚れ（主に有機性汚濁物質）が酸化剤によって酸化されるときに消費される酸素の量を指します。

地下水水質

工場内外に、小田原サイトでは9ヶ所、足柄サイトでは16ヶ所、観測井を設置し定期的にモニタリングしています。

主な項目 (単位: mg/L)	法定浄化基準 および県条例基準	小田原サイト			足柄サイト		
		工場管理値	2014年度 (測定9箇所)	2015年度 (測定9箇所)	工場管理値	2014年度 (測定16箇所)	2015年度 (測定16箇所)
カドミウム	0.01	0.01	0.001未満	0.001未満	0.005	0.005未満	0.005未満
全シアン	検出されないこと	検出されないこと	検出されず (0.005未満)	検出されず (0.005未満)	検出されないこと	検出されず (0.1未満)	検出されず (0.1未満)
鉛	0.01	0.01	0.005未満	0.005未満	0.01	0.005未満	0.005未満
六価クロム	0.05	0.05	0.01未満	0.01未満	0.01	0.01未満	0.01未満
砒素	0.01	0.01	0.001未満	0.001未満	0.01	0.005未満	0.005未満
総水銀	0.0005	0.0005	0.0005未満	0.0005未満	0.0005	0.0005未満	0.0005未満
アルキル水銀	検出されないこと	検出されないこと	検出されず (0.0005未満)	検出されず (0.0005未満)	検出されないこと	検出されず (0.0005未満)	検出されず (0.0005未満)
PCB	検出されないこと	検出されないこと	検出されず (0.0005未満)	検出されず (0.0005未満)	検出されないこと	検出されず (0.0005未満)	検出されず (0.0005未満)
ジクロロメタン	0.02	0.02	0.0002未満	0.0002未満	0.015	0.0005未満	0.0005未満
四塩化炭素	0.002	0.002	0.0002未満	0.0002未満	0.002	0.0002未満	0.0002未満
1,1,1-トリクロロエタン	1	1	0.0002未満	0.0002未満	0.001	0.0005	0.0005未満
トリクロロエチレン	0.03	0.03	0.0002未満	0.0002未満	0.001	0.0005未満	0.0005未満
テトラクロロエチレン	0.01	0.01	0.0002未満	0.0002未満	0.001	0.0005未満	0.0005未満
ベンゼン	0.01	0.01	0.0002未満	0.0002未満	0.01	0.0002未満	0.0002未満
セレン	0.01	0.01	0.005未満	0.005未満	0.01	0.005未満	0.005未満
硝酸性窒素および亜硝酸性窒素	10.0	10.0	5.6	2.1	10.0	2.0	1.8
ふっ素	0.8	0.8	0.1未満	0.1未満	0.8	0.2未満	0.2未満
ほう酸	1	1	0.1未満	0.1未満	1	0.1未満	0.1未満

「〇〇未満」とは検出限界未満を表します。

PRTR 調査結果

PRTR対象物質・自主管理化学物質データ (2015年度)

単位: t / 年

対象物質名	政令指定番号	排出量				移動量		
		大気	前年との差異	水域	土壌			
小田原サイト	アセトニトリル	13	0.1	-0.1	0.0	0.0	1.6	
	銀及びその水溶性化合物	82	0.0		0.0	0.0	0.0	
	コハルト及びその化合物	132	0.0		0.0	0.0	0.1	
	ジクロロメタン	186	0.0	-2.6	0.0	0.0	0.0	
	N,N-ジメチルアセトアミド	213	0.1	0.0	0.0	0.0	13.4	
	N,N-ジメチルホルムアミド	232	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	
	トルエン	300	0.1	-0.0	0.0	0.0	3.6	
	ヒドラジン	333	0.0		0.0	0.0	0.0	
	ヒドロキノン	336	0.0		0.0	0.0	0.0	
	n-ヘキサン	392	0.0	-1.5	0.0	0.0	0.0	
	りん酸トリフェニル	461	0.0		0.0	0.0	10.8	
	足柄サイト	アセトニトリル	13	0.2	0.0	0.0	0.0	1.8
		アンチモン及びその化合物	31	0.0		0.0	0.0	0.0
		銀及びその水溶性化合物	82	0.0		0.0	0.0	0.0
パラクロロフェノール		121	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	
クロロホルム		127	0.3	-1.5	0.0	0.0	1.7	
ジクロロメタン		186	59.6	-9.7	0.0	0.0	18.2	
セレン及びその化合物		242	0.0		0.0	0.0	0.1	
トルエン		300	0.5	0.2	0.0	0.0	5.3	
砒素及びその無機化合物		332	0.0		0.0	0.0	0.0	
ヒドロキノン		336	0.0		0.0	0.0	0.2	
n-ヘキサン	392	1.0	0.2	0.0	0.0	5.0		
メチルナフタレン	438	0.3	0.1	0.0	0.0	0.0		
りん酸トリトリル	460	0.0		0.0	0.0	0.3		
りん酸トリフェニル	461	0.0		0.0	0.0	5.9		

* PRTRとは環境汚染物質排出移動登録 (Pollutant Release and Transfer Register) の略で、化学物質を製造・使用する事業者が自主的に環境への排出量を把握・管理する仕組みのことです。

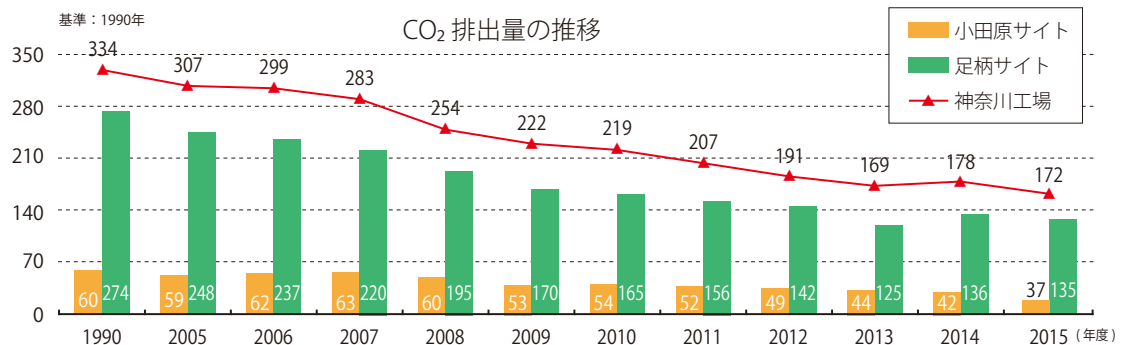
省エネルギー・CO₂排出量の削減

神奈川工場は2013年度よりエネルギー戦略推進委員会を発足させ、工場をあげて省エネ活動を積極的に行い、CO₂の排出量削減と省エネに取り組みました。昨年度に引き続きLED照明の導入、製造条件見直しなど省エネ活動を進めています。さらに社内専門家が温度やエアリークの測定器を持って設備診断を実施しエネルギーロスをなくす活動を行って、年間3%の省エネ対策を実施しました。

また、政府が推進している電力のデマンドレスポンス（電力需給逼迫時に電力会社の要請で購入電力を削減し安定供給を確保する仕組み）の実証試験に参加し電力安定供給に貢献しています。

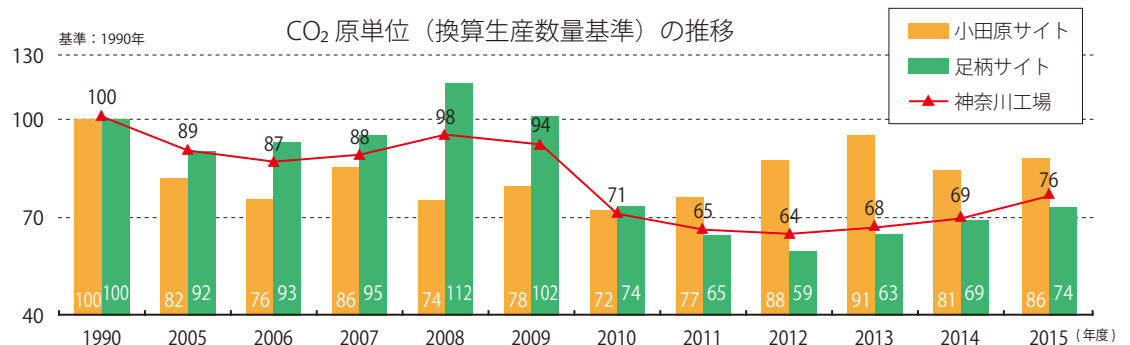
CO₂ 排出量の削減

神奈川工場は1990年比 約48% 低減を達成しました。



CO₂ 排出原単位の改善

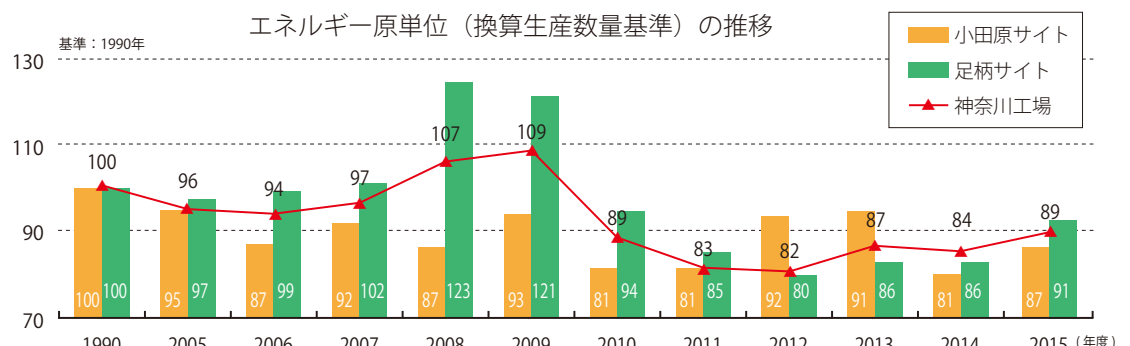
神奈川工場は1990年比 24% 低減を達成しました。



※CO₂排出原単位…製品㎡当たりのCO₂排出量

エネルギー原単位の改善

神奈川工場は1990年比 11% 低減を達成しました。



※エネルギー原単位…製品㎡当たりのエネルギー使用量

地域とのコミュニケーション

従業員の積極的なボランティア活動参加などによる地域との共生、社会への貢献を大切にしています。

清掃活動への参加

「クリーンさかわ」への参加

5月

小田原市自治会連合主催による美化運動に市民や様々なボランティア団体の方々と一緒に参加し酒匂川流域の清掃作業を行っています。



「山王川・久野川」の清掃

6月

小田原市および山王川・久野川流域自治会主催による河川の清掃作業を自治会の方々と一緒に行っています。



「春木径・幸せ径」の草刈

6月・8月

春木径奉仕会主催による足柄サイト東側狩川土手沿い両岸の草刈を近隣住民の方々・様々なボランティア団体のみなさんと一緒に行っています。



工場周辺の美化清掃活動

随時

工場係長会による美化清掃活動を実施しています。



従業員による地域とのかかわり

「環境フェア」への参加

6月

南足柄市役所で開催される環境フェアに参加し工場の環境活動について見学に訪れる小学生にもわかりやすく説明しています。



自治会環境説明会

11月

神奈川工場周辺の自治会の皆様へ事業場の環境への取り組みを説明し意見交換を行っています。



「小田原市出初式」への参加

1月

新春恒例小田原市消防出初式に参加しています。



◆対象組織◆

富士フイルム神奈川工場 および
当工場敷地内のすべての関連組織、グループ会社が対象

神奈川工場

イメージング材料生産部
ファインケミカル生産部
事務部

主な関連組織

フラットパネルディスプレイ材料生産部
フラットパネルディスプレイ材料研究所
有機合成化学研究所
高機能材料研究所
記録メディア事業部生産部
記録メディア研究所
解析技術センター
生産技術センター

主なグループ会社

富士フイルムフォトマニュファクチャリング（株）
富士フイルムメディアマニュファクチャリング（株）
富士フイルムオプトマテリアルズ（株）
富士フイルムファインケミカルズ（株）平塚工場小田原分室
富士フイルムビジネスエキスパート（株）
富士フイルムエンジニアリング（株）

FUJIFILM
Value from Innovation

富士フイルム株式会社

神奈川工場 | 小田原サイト
〒250-0001 神奈川県小田原市扇町 2-12-1
足柄サイト
〒250-0193 神奈川県南足柄市中沼 210

■環境データ対象期間
2015年度（2015年4月～2016年3月）

本レポートに関するご意見・お問い合わせは下記までお願い致します。
富士フイルム 神奈川工場 事務部 環境安全グループ
TEL：0465（73）6090
FAX：0465（73）6909

発行 2016年7月 次回発行予定 2017年7月